

シェアにのみや（ラディアン展示ギャラリー） 2017年11月12日(日)

【決算報告についての質疑応答】

(参加者) 消防の指令業務は今年からか。広域化の体制が他の自治体に比べてちょっと遅い。気が合わない人がいて、人事交流がないままでいると、署にいつらいということがあるので、議会がどこまで行政に対して意見を言うか分からないが、人事を含めて議会からも意見を言ったら良いと思う。

(参加者) 実際にこのような決算審査意見を出したら、町は具体的に動いているのか。議会では、できたかできていないのかの評価をしているのか。

⇒(決算委員長) 出した審査意見がどうなったかという結果は、毎年議会だよりでお知らせをしている。町は審査意見に対しては重きを置いているので、袖が浦プールも議会の意見があったので閉めた経緯がある。

⇒(議員) 審査意見でプールのことを出したときは、すぐ閉鎖せよと言ったのではなく、利用が増えるような工夫をして、それでもだめなら閉鎖を検討するよというものだったので、審査意見がすんなり、そのまま実現したかといえばそうでもないこともある。

⇒(決算委員長) 私たちの審査意見が町の施策を後押ししたということはある。12月には袖が浦プールに関して議員提出の意見が出される。

(参加者) 審査意見の何%ぐらい実現されたとか、具体的に報告があっても良い。こういう時にも反省や評価を報告してほしい。

(参加者) 一時収入が4億円以上あった。二宮はなんでもお金がない、という話になるので、積み立てをするのではなく使った方がいいのでは。

⇒(決算委員長) その件は本会議において補正予算で議論された。修正申告があると還付金が生じるため、5年間は置いておきたいということになった。いつ還付があるのか分からないため、やむを得ずの結論とした。

(参加者) ワクチンは毎年打たないと効果がない。1回目は国の補助ありで、いかにもやっていると宣伝するのはどうなのか。

(参加者) 国保は来年から県の運営となる。保険料の負担が増えるのであれば早めに広報してほしい。町民に不利益となることは早めにお願したい。

(参加者) 決算審査意見の1~8まで改めて説明をもらうと、特に消防の実態については驚く。5番の学校のホームページについては何がネックなのか。

⇒(決算委員長) 知恵と工夫でできるはずなので、やってほしいと言っている。コミュニティスクールで作るとか、子どもたちが作って更新するなど、やり方はいろいろあるはず。

(参加者) 審査意見の7番。職員の働き方についてだが、具体的提案はあるのか。

⇒(決算委員長) 例えば税務課も夜中まで仕事をしているので臨時をあてられないのかなどを提案している。

(参加者) 長時間労働がなぜか、というのを議員が聞いたりしたらどうか。ストレスチェックは当たり前。具体的提案が議員からされていないと感じる。

⇒(決算委員長) 頑張ります。

(参加者) 職員の話。残業の20時間は少ない。正確な勤務実態をつけてもらうことで初めて知るわけであり、そこから何をするかだ。時期による波もあると思うが、今はアブノーマルだということを知ることからだ。

(参加者) 公共施設に関しては、ワークショップとかをやっているようだが、情報発信が下手だ。役場を知る人しか、知りたい情報にたどりつけないのが致命的。

⇒(決算委員長) ホームページの情報が見づらい、探しづらいというのは課題だと思っている。ツイッターとFacebookも連動しているのに活用しきれていないというのがあるので工夫する。

「図書館について」

(司会) 図書館を町民のニーズに沿って変えていきたい。以前は満足度は非常に高かったが、今のままで良いのか、それとも変えたほうが良いのか。資料を配ったのは、世の中に多種多様に図書館があるという例である。町に適用できる要素があるのか、24時間対応、交流ができること、マンガがあるなど、ネットから適当に選んだ。例えば慶応大学の図書館に行った時、半分はグループワークできて、半分は静かな図書館としていた。住民のニーズをとらえているものもある。BGMをかけていたり、お正月に開館していたり。今回は町民ニーズに合わせて、図書館を変えていけることができればと思って企画をした。必要であれば町への提言につなげたい。まずはどのようなところが「図書館の良いところ」なのか、ご意見いただければ。

(参加者) まだまだ町は遅れている。休館日は88日らしい。町民センターは4日間しか休んでいない。同じ町の施設でなぜこんなに違うのか。みなさんにたくさん使ってもらうのが筋。年末年始が8連休。理解できない。館内整理日も多い。本を整理するなら2階を活用するなど。本は貸し出しできなくてもここで読むなど。エリアを分割しながらできるのではないか。工夫が足りない。朝の9時半に開館するのは遅い。定年した人など朝から来たい。朝に覗いても何もしていない職員。来た時間からオープンしても支障ないのではないか。

(司会) 開館時間、整理日等々については議会でも質疑があった。

(参加者) 開館についてだが、ラディアンが休みだと図書館が開かない。冷暖房も使う。ラディアンは全部集まるところとして機能しているため、図書館への制約がある。神奈川県内で開館日は一番少ない。もうひとつの問題は、書庫が満杯になっていること。寄贈も受け取らない。書庫はどうするなども議員は考えて欲しい。ラディアンの予算がしっかり発表されない。開館日は少ないけど県内の入場者は多い。

(司会) 本を借りた人の延べ人数はあるが、実質の利用人数が数として出ていない。

(参加者) 1年間で1回だけ使った町民は8300人。利用者としてはいるのではないか。

(司会) 延べだと9,200人だし、集計のしかたは違うのがある。絶対数としては8,200人となる計算。延べの数字で言えば有効な施設。

(参加者) さまざまな分野の本が揃っているのが良い所。健康・環境・歴史などなど。それぞれに。地域の特性などふまえながら図書館がある。月々に買えるものはあるが、資料費の限界もある。読み聞かせの活動をしていて本を選びに来るが、明日読みたいという本がない、資料費が減る影響はそういうところにある。書架に並んでいるから本との出会いがある。館内整理日も必要。人の配置は必要。

(司会) 図書館年報にはジャンル別にも載っている。整理日が必要なのは、特に子どもの本のため。

(参加者) 今、配布された資料にある図書館と二宮町の図書館とは財政規模が違う。二宮は中核。大磯も優れているが駐車場は少ない。歩いて、自転車で、誰でも使いやすくあるべきという施設の性格も大事。予算規模からしても、基本的なものを更新することにお金をとられている。防災、高齢化などを司書は考えている。資料費等はどんどん減っている。予算を知っている身からするとあれもこれもは言えないが、本当はもっと欲しい。書庫の問題ともつながる。

(司会) 本を選ぶリストからしか本を買わないのでは。

(参加者) 購入の工夫はできないのかという提案もしている。アマゾンでは手間がかかる。寄付の提案など。予算が少ない。買う工夫をしる、と。

(参加者) 寄付はすんなりいただきますというわけにもいかない。使われなくなった古い全集とか。

(参加者) 私は松田町に住んでいるが、松田は図書館法の図書館ではない。いつも悩んでいる。でも同じ悩みがあるのが分かった。これからの方向性としては、無料貸本屋という意見もおきていて、図書館の意義をどう考えるか。知る権利を保障することを守らなきゃいけない。基本と書を守ることで精いっぱい。自治会館で得意分野をつくれればよいのでは。

どういう図書館を目指すのか、自分たちがどういう図書館を持ちたいのか、最低限、守りたいことを出さないと、いつまでも予算が足りないという議論になる。課題解決型というの也被われている。

(参加者) 1回も借りられていない本はほとんどない。選書が良い。地道にやってくれている。廃棄してしまうことにも問題がある。

(参加者) 予算が減るから本を買わないのではない。平均単価が下がるだけ。つじつま合わせをする。二宮も平均単価が減っている。もうひとつ。予算に対してどんな還元率になるか考えるべき。還元率は良くなっている。費用対効果は二宮はけして悪くない。一般会計の図書館経費で、本の単価と、どのような利用頻度なのか等が出る計算式がある。二宮町でも出している。

(議員) 百合が丘から歩いて図書館に行って、スポーツ新聞を読むというのも、健康のためのきっかけづくり。

(司会) 改善点はあるか？

(参加者) 書庫の問題。電子図書も安くなっている。町民力・ボランティアをもっと使うのも良いと思う。

【図書館の発表】

図書館を楽しむ会の方の参加が多かった。開館日は県内で一番少なく、予算が足りずに不備が生じている。また地下の書庫はすでに満杯、学校の部屋を使うなど、町全体で考えるべき。ラディアンは複合施設なので、開館日増には課題があるが、開けながら整理できるのでという意見も。町民ボランティアを募ったり、広域、連携強化で、それぞれがジャンル別に充実させるなども有意義。

【自主防災について】

(司会) 自主防災に参加しているか。

(参加者) ほとんど参加している。町内会では災害時情報収集が大切であると考え、5年ほど前に予算化し、太陽光パネルを公会堂に設置した。メンテ役をしている。バッテリー2個で昼間は蓄電、テレビが半日ほど見られる程度。

(参加者) 停電を想定すると確かに避難場所には設置したい。

(参加者) 今回は二宮の議会報告会で「自主防災」テーマがあったので参加した。小田原市民(中村原)である。10月に全市一斉に連自治会単位で防災訓練があり参加した。

(26か所) やはり自治会長、役員が多い。いざ発災した場合の避難は二宮となると感じている。自衛隊は1週間でも来られないだろうし、その間インフラを小田原市には頼れないと感じている。二宮にはロピア、西友、ビッグ、クリエイト等いざという時にも物資が揃っている。

(司会) 自主防災に思うことは。

(参加者) 消防広域化同様、防災は広域化する必要がある。生活圏で助け合うことが大切。
(石神台、虫窪、橘団地は生活圏は二宮) 水が確保できていないと感じ、心配で不安。各家庭用意しているか、自治体在庫で間に合うか、井戸を掘れば活用できるのではないか、遊水地を掘りポンプで普段から汲んでいけば飲み水にも使用できるのではないか、昔は田んぼも多かった。

(議員) 富士見が丘は山に囲まれて、水(沼)があった。

(参加者) 二宮は地盤が良いから家屋が崩れなかったのでは。

(議員) 場所によっては悪い地域有り、消防署一帯は比較的悪い。

(参加者) 震度5強もあった。

(議員) 以前、井戸の調査を行ったことがあり、元町妙見にも井戸が2つあったが、全く使われておらず不可であった。

(議員) 実のある防災訓練はどうしたらよいか気になる。

(参加者) 盆踊りや祭りでも顔を合わさず、隣近所を知らない人がいるのではないか。人の顔が見えないのは良くない。回覧板はブロック(20世帯前後)ごとに回しているが。

(議員) 阪神淡路大地震では死者ゼロの町があったが、寝ている場所まで知っているほど地域の人々の関係は深かった。

(参加者) 地域で顔見知りになることがまずは防災、いるかいなか、大丈夫か否か、普段からの付き合いが何よりも大切だ。そのきっかけを作るのが自主防災訓練ではないか。地区の清掃活動などは今はしていないし。

(参加者) 小田原全市一斉訓練のなか、私の地区では小学生と保護者を対象に、調理室を借りて炊き出しを行い、防災食をつくって食べた。270名いる児童のうち、30人程度の子どもに加え、保護者が参加し調理し食した。全体でやるのは大変だが、毎年対象を変えてこのような取り組みを実施するのも良いのではないか。

(議員) 地区防災も役員や一部興味のある方しか参加していないのが気になる。

(参加者) 防災マップの作りかたも考えた方が良い。煽るだけにならないように。

(司会) 町への要望は。

(参加者) 防災マップは当たり障りないものとなっており、いざ災害となってもどこに行ってもよいか分からないのではないかと、災害の大きさにより動きは変わる。

(参加者) 実際どう動くか。公園で寝泊まりすることもあるだろうし、指定外避難所に行くこともあるだろう。どのくらいそこで耐えなければならないか。そこを町は考えておく必要がある。例えば、東大果樹園跡地にテント張る必要があるのか。車で寝泊まりする家族もあるだろうし、ある程度想定しておくことが必要。災害の大きさによって避難の仕方、場所も変わるだろう。

(参加者) 消防、自衛隊…すぐ来てくれるだろうと住民は思ってしまったが、災害は広域に起こるので期待はできない。自助、共助までだろう。

(参加者) 水、食、排便、睡眠…まずはそこを整える必要がある。

(議員) 学校体育館で1泊訓練を実施する自治体もある。検討必要。

【自主防災の発表】

1. 情報収集は大切（町内会に太陽光パネルを設置し、発電、蓄電しては）
町⇒非常用発電機等による対応をしている。太陽光パネルからの電力確保ができれば大いに役立つ。
2. 水の確保が心配（井戸水利用を検討できないか）
町⇒3,000 tの飲料水を確保。また生活用水として防災井戸の指定を行っている。
3. 防災は各地区だけでは無理であり、生活圈、広域で計画、実施が必要。
町⇒近隣市町とは相互支援を円滑に行う協力体制を整備している。特に小田原市とは住民同士で合同訓練も実施している。
4. 日ごろから隣同士、近所付き合いが基本。
5. 災害規模によりどう避難すべきか、公助はないという前提のシミュレーションが必要。